

第 3 章

プロジェクト研究 II

プロジェクト研究 「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」について

1. はじめに

模擬株式会社組織は、学校を会社組織に見立て、生徒は株主兼社員となり作業学習を始めとする校内の様々な活動をとおりて商品開発や生産活動、販売計画や決算等により社会人としての経験を積ませることを目的として設立され、今年度で3年目となった。生徒の活動の目標としては、会社の仕事として働くことの意識を持ち、働く力を伸ばすことに主眼をおいた。今回は年間の模擬株式会社 IMAKANE FACTORY の活動を報告する。

2. 今年度の取り組み

①模擬株式会社委員の選出

本年度から生徒会の委員会の中に属し、各学級から1名選出、9名で委員会を組織する形態とした。

②模擬株委員会の活動方針

各種事業を委員の主体的な活動となるように支援した。生徒達は委員会の中で2点の目標をたてた。

- ・恥ずかしがらず、自分から意見を出し、皆で協力する。
- ・学校の代表として恥ずかしがらず発表をする。

③模擬株式会社総会（6月14日、2月13日）

- ・各学科の年間の活動や取り組みについて説明
- ・株式会社の理解に向けた学習会（株について）
- ・今年度の取り組み（仕入れ商品、コラボ商品、ふるさと納税返礼品）
- ・年間活動について



④IMAKANE FACTORY 学習会（10月24日）

函館蔦屋書店から本校の卒業生を含む3名の方に来校いただき、販売実践の講師をお願いした。事前に送っていただいた蔦屋書店の接客マニュアルをベースに本校生徒用の接客・販売マニュアルを作成し、それを元に販売活動の実践を行った。

はじめに、マニュアルをベースに接客・販売・商品陳列等の全体講義を行った。この中では、接客とは接遇の気持ちをもつことという心構えから始まり、マナーやよく使用される言葉使い、立ちふるまい等の内容を実演も交えてわかりやすく講義していただいた。続いて、学校祭の販売の各係（レジ係、販売係、案内係）に分かれて販売の演習を行った。演習では、各科で模擬商品を陳列し、商品を販売するときの説明、会計時のお金の渡し方、お客さんの案内の方法等を生徒が体験する形を取って演習を行った。今年度から学校祭の販売が「学科毎」から「3学科一斉」の販売形式に変更になったことから販売方法や販売会場のイメージを掴む絶好の機会となった。



⑤ふるさと納税返礼品（6月～2月）

【返礼品の内容】

窯業科・農業科「小鉢と小豆のセット」「丸皿と玉ねぎのセット」「グラタン皿と玉ねぎのセット」
家庭総合科「お掃除セット」



模擬株式会社委員会の活動により、各学科の生産品の状況から返礼品の候補を学科毎にあげ、それから学科同士の組み合わせを検討した。昨年度よりも納税額が増額された影響からか（5000円から9000円に増額された）注文は昨年に比べて低調だったが、11月に福岡県の方から「グラタン皿と玉ねぎのセット」、1月に徳島県の方から「お掃除セット」合計2セットの注文があり、それぞれ納税があり、それぞれ発送することができた。

⑥学校説明会・学校見学会（6月5日、10月30日）

模擬株委員会では、学校説明会（中学3年生、保護者、中学校の先生対象）や学校見学会（中学2年生、保護者、中学校の先生対象）での学校紹介を行った。それぞれの学科の特徴、作業内容、生産品についてパワーポイントを使って説明した。また、模擬株式会社の組織や共通作業種の意義や内容についても説明を行った。



⑦学校祭（11月17日）

- ・コラボ商品の開発（仕入れ販売会場にて販売）

模擬株委員会の活動により、各学科の生産品の状況からコラボ商品候補を学科毎にあげ、それから学科同士の組み合わせを検討した。委員会では、製品を検討するにあたり、各学科の施設を見学し、学科の生産品の情報交換を行った。



- ・チラシの作成（生徒製作）

各学科の模擬株委員にて各学科の仕入れ商品や製品の写真、コメント、レイアウトを考案し、作成した。



- ・仕入れ販売

各学科の模擬株式会社委員により学科毎に販売のテーマを検討し、それに相当する候補商品をいくつか調査した。候補商品については、全校生徒にアンケートを行い、販売する商品を決定した。

各学科のテーマは以下のとおり。

窯業科 被災地支援（地震や水害に見舞われ



た地域の商品を販売し被災地支援する)

農業科 地元産農産物(今金町、せたな町から生産された農産物や食品を販売し、檜山北部をPRする)

家庭総合科 スイーツ(本校で開発に携わった商品とスポーツ部が参加した全国大会開催地にちなんだスイーツの販売)

昨年の予算額よりも増額して商品を仕入れ、いずれの商品も完売することができた。今年度の収益から全生徒に令和2年の卓上カレンダーを利益分として配布することができた。

今年度から学校祭の販売が「学科毎」に産振棟で実施していた形式から仕入れ販売やコラボ商品の販売も含めた3学科一斉販売を体育館で実施することになった。模擬株委員の活動として学校祭の販売掲示にQRコードを入れたポスターを掲示、来校者にスマートフォンで販売物の情報を提供した。

今回の販売では、あまり見ることでできなかった他学科の製品を見ることができたなど生徒には勉強になる面が多くあったと感じた。一方、一挙に体育館に集中したため混雑し、案内の手法や掲示物の表示等での課題が残った。

⑧アンケートの実施(総会で発表)

12月に模擬株式会社に関するアンケートを全校生徒対象に実施した。仕入れ商品の量や内容、コラボ商品について、次年度役員になりたいか等を全生徒からアンケートの回答を得た。今年度は各学級から委員を選出ということから模擬株委員の仕事の内容の理解が昨年70%から87%へと上昇し、委員の仕事への認知が高まった。

⑨共通作業種(5月～2月)

- ・回覧作業(年間)
- ・車いす清掃(年間)
- ・レク補助(年間)
- ・総合体育館清掃(作業強化、マニファクチュア)
- ・認定こども園除草、運動会補助(1学年)



1年間の活動実績として、回覧作業は15回、車いす清掃は12回、レク補助は16回取り組んだ。車いす清掃については2・3年生、それ以外は全学年が作業学習の時間に実施した。また、作業強化日や3年の校内マニファクチュアを利用し総合体育館の清掃に取り組んだ。

1年生は認定こども園のグラウンド除草や運動会総練習の補助にも参加した。共通作業種に参加した本校生徒はその態度や挨拶等で高い評価を得ることができた。

⑩模擬株式会社事業報告（今金町役場）

今年度の模擬株式会社の取り組みについて、町長、副町長、教育長に報告を行う予定であったが、新型コロナウイルス対応による休校のため実施することができなかった。次年度以降も模擬株式会社の活動内容の報告を町役場で行っていく予定である。

⑪模擬株委員会の1年間の活動内容

新たに委員会組織となった模擬株委員会の1年間の活動内容は以下の通りとなった。

回	月日	活 動 内 容
1	4月16日	自己紹介 役員選出 年間活動計画 年間目標
2	5月7日	年間目標決定 ふるさと納税について各学科打ち合わせ
3	5月28日	ブルーベリー鉢上げ 諸連絡
4	6月4日	学校説明会リハーサル
5	7月16日	学校祭仕入れ販売の各学科テーマ コラボ商品学科間交流
6	8月20日	仕入れ商品の内容決め
7	9月10日	仕入れ商品の内容決め アンケート作成
8	9月11日	仕入れ商品の内容決め アンケート作成
9	9月17日	アンケート作成 パーテーション掲示
10	10月1日	アンケート集約 パーテーションの表示変更 学習会の掲示 HRで連絡する内容確認 仕入れ販売利益分の案
11	10月17日	学校祭チラシ作成 学校説明会の分担・練習 学習会資料の丁合
12	10月29日	学校見学会リハーサル
13	11月12日	仕入れ商品のポップ作成 QRコード用の写真撮影 アンケート作成
14	11月16日	学校祭ポスター掲示 バーコード貼り カレンダー表紙入れ
15	12月3日	学校祭反省 ふるさと納税返礼品について 仕入れ帳簿の記入
16	12月10日	生徒総会反省 模擬株アンケート実施の説明方法
17	1月21日	学校祭アンケート集約（総会用） 模擬株委員反省
18	2月4日	模擬株総会係分担 練習 生徒総会練習

3. おわりに（次年度に向けて）

今年度は正式な委員会となり各学級の委員9名が1年間を通して活動することになった。人数が増えた分に応じて活動の幅が広がり、昨年よりも更に生徒自身が主体的に活動することや充実した学習となるように、学科ごとに知恵を出し合い実施することができた。特にコラボ商品やふるさと納税返礼品では、学年の垣根を越えてアイデアを出し合うことで自分たちの販売という意識を持つことができた。

模擬株式会社の取り組みについては関係各所から評価をいただいているところではあるが、校内外の活動について更に生徒主体の活動と内容の充実を図っていきたいと考えている。